(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第3771290号
(P3771290)
(45)発行日　平成18年4月26日(2006.4.26)　(24)登録日　平成18年2月17日(2006.2.17)

(51)Int.Cl.		F I		
A61F 13/56	(2006.01)	A61F	13/18	350
A61F 13/15	(2006.01)	A61F	13/18	370
A61F 13/472	(2006.01)	A61F	13/00	351F
A61F 13/00	(2006.01)			

請求項の数 10　(全 11 頁)

(21)出願番号　特願平6-202263
(22)出願日　平成6年8月26日(1994.8.26)
(65)公開番号　特開平8-56989
(43)公開日　平成8年3月5日(1996.3.5)
審査請求日　平成13年7月9日(2001.7.9)

(73)特許権者　390029148
大王製紙株式会社
愛媛県四国中央市三島紙屋町２番６０号
(74)代理人　100082647
弁理士　永井　義久
(72)発明者　辻　ともえ
愛媛県伊予三島市紙屋町５番１号　大王製紙株式会社内
(72)発明者　中尾　直人
愛媛県伊予三島市紙屋町５番１号　大王製紙株式会社内

審査官　植前　津子

(56)参考文献　実開平０３－０７３１３１（ＪＰ，Ｕ）
最終頁に続く

(54)【発明の名称】吸収性物品

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
ショーツに貼着するためのズレ止め用粘着手段を非使用面に有する吸収性物品本体と、この吸収性物品本体の使用面を実質的に覆う表面カバーシートとを備え、
前記吸収性物品本体が前記表面カバーシートとともに、前記表面カバーシートが外側となるようにかつズレ止め用粘着手段と対面するように長手方向に折り畳まれ、この折り畳み状態において前記表面カバーシートの前記ズレ止め用粘着手段と対面する部位に、前記ズレ止め用粘着手段を覆う剥離紙が仮着されていることを特徴とする吸収性物品。
【請求項２】
ショーツに貼着するためのズレ止め用粘着手段を非使用面に有する吸収性物品本体と、この吸収性物品本体の使用面を実質的に覆う表面カバーシートとを備え、
前記吸収性物品本体が前記表面カバーシートとともに、前記表面カバーシートが外側となるようかつズレ止め用粘着手段と対面するように長手方向に折り畳まれ、この折り畳み状態において前記表面カバーシートの前記ズレ止め用粘着手段と当接する部位が離型処理されていることを特徴とする吸収性物品。
【請求項３】
折り畳み状態において前記表面カバーシートの両側縁相互がヒートシール接合されている請求項１または２記載の吸収性物品。
【請求項４】
表面カバーシートの長手方向の一端部に粘着テープが設けられ、この粘着テープが折り畳

み状態において対面する表面カバーシートに接着されている請求項１～３の何れか１項に記載の吸収性物品。
【請求項５】
ショーツに貼着するためのズレ止め用粘着手段を非使用面に有する吸収性物品本体と、この吸収性物品本体の使用面を実質的に覆う表面カバーシートと、前記吸収性物品本体の非使用面側に位置し前記ズレ止め用粘着手段を覆う剥離性の裏面カバーシートとを備え、
前記表面カバーシートが、前記吸収性物品本体の使用面側の長手方向一端部に仮止めされていることを特徴とする吸収性物品。
【請求項６】
前記表面カバーシートが、ホットメルト接着剤によって点で、吸収性物品本体の使用面側の長手方向一端部に、仮止めされている請求項５記載の吸収性物品。
【請求項７】
前記表面カバーシートと裏面カバーシートとがそれらの長手方向の少なくとも一端において接着せしめられていない請求項５または６記載の吸収性物品。
【請求項８】
裏面カバーシートと表面カバーシートとが長手方向両側縁においてヒートシール接合され、両カバーシートにより吸収性物品本体の包装がなされているとともに、その包装状態で長手方向に折り畳まれている請求項５～７の何れか１項に記載の吸収性物品。
【請求項９】
前記吸収性物品本体が前記表面カバーシートおよび裏面カバーシートとともに、前記表面カバーシートが外側となるようにして長手方向に折り畳まれ、この折り畳み状態において前記裏面カバーシートと前記表面カバーシートとの両側縁がヒートシール接合されている請求項５～７の何れか１項に記載の吸収性物品。
【請求項１０】
吸収性物品本体の非使用面側から長手方向端部の一辺を巡って使用面側に至る１枚のカバーシートによって、前記表面カバーシートおよび裏面カバーシートが構成されている請求項５～９の何れか１項に記載の吸収性物品。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【産業上の利用分野】
本発明は、吸収性物品に係り、特に、衛生的にショーツ等に貼着することができる生理用ナプキンやおりものシートに関する。
【０００２】
【従来の技術】
従来より、例えば生理用ナプキン（以下、単にナプキンともいう。）は、製造したナプキンを三つ折りまたは四つ折りし、フィルムまたは紙よりなる個装袋に一つづつ入れて市場に提供されていた。使用者がこのナプキンを使用する場合は、個装袋からナプキンを取り出し、非使用面をショーツ等の内面に貼着し、使用している。
【０００３】
このナプキンの非使用面には、ショーツにナプキンを貼着するため、たとえば粘着剤が塗布されており、出荷段階では、粘着剤の粘着力が低下しないように、たとえば離型処理した剥離紙が仮着されている。なお、本明細書において「仮着」とは、粘着手段に対して、その粘着力を低下させない状態で貼着されていることをいう。
【０００４】
【発明が解決しようとする課題】
ところで、この種の生理用ナプキンにおいては、人体の局部に直接触れながら使用されるものであるため、衛生的であることが要求される。ところが、従来より市場に提供されている生理用ナプキンの場合には、通常、ナプキンの使用面を手で押しつけて、ナプキンをショーツに貼着せざるを得ないものであった。人間の手には数多くの雑菌が付着しているため、このような手でナプキンの使用面に触れることは衛生上、非常に好ましくないこ

とである。

【０００５】

たとえば、極力ナプキンの使用面に触らずに、ナプキンをショーツに取り付けようとすると、ナプキンの周囲しか触れることができなくなり、ショーツにナプキンを完全に貼着することが困難となる。また、たとえばテッシュ、トイレットペーパー等を間に介してナプキンを押し付けショーツに貼着することも考えられるが、その場合に、テッシュ等を取り出したり、それをずれないようにナプキンの使用面に当てたりする作業が煩雑となり、実用的でない。

【０００６】

他方、従来、使用者は、ナプキンをショーツに貼着する際、まず個装袋からナプキンを取り出し、続いて剥離紙を剥がし、その後ショーツに貼着するという段階を経てナプキンを取り付けていたため、これら一連の作業に大変手間がかかるという問題もある。

【０００７】

この問題に対して、たとえば特表平５－５０７４２７号公報において開示されているナプキンがある。このナプキンは、個装袋に入れる代わりに、フィルムシートと一体化させて包装したものである。具体的に説明すると、ナプキンの非使用面に粘着されている剥離紙に、このナプキンよりもひと回り大きいフィルムシートを貼着し、ナプキンの使用面を内側として長手方向に三つ折りに畳み、そしてナプキンを内包するフィルムシートの両側縁をヒートシールするとともに、フィルムシートの長手方向先端を粘着テープによって粘着して、ナプキンが外気と接触するのを避けるようにしたものである。

【０００８】

かかるナプキンを使用する場合、使用者は、まず先端の粘着テープを剥がし、続いてヒートシール部を剥がす。そして、三つ折りされているナプキンを開き、その後フィルムシートをナプキンより剥がす。すると同時に剥離紙も剥がれ、そのままショーツに貼着することができる。したがって、使用者においては、ナプキンを個装袋から取り出す分の手間が省かれることとなる。

【０００９】

しかし、この生理用ナプキンにおいて、上記した衛生面に関する問題については何ら言及されていない。

【００１０】

そこで、本発明の第１の課題は、吸収性物品の使用面に直接触れずに、吸収性物品をショーツに対し圧着固定することができ衛生的である吸収性物品を提供すること、第２の課題は、同時に包装の便宜を図り、取り出しからショーツに対する固定までの一連の作業を簡略できる吸収性物品を提供するものである。

【００１１】

【課題を解決するための手段】

上記課題を解決した、請求項１記載の発明は、

ショーツに貼着するためのズレ止め用粘着手段を非使用面に有する吸収性物品本体と、この吸収性物品本体の使用面を実質的に覆う表面カバーシートとを備え、

前記吸収性物品本体が前記表面カバーシートとともに、前記表面カバーシートが外側となるようにかつズレ止め用粘着手段と対面するように長手方向に折り畳まれ、この折り畳み状態において前記表面カバーシートの前記ズレ止め用粘着手段と対面する部位に、前記ズレ止め用粘着手段を覆う剥離紙が仮着されていることを特徴とする吸収性物品である。

【００１２】

請求項２記載の発明は、ショーツに貼着するためのズレ止め用粘着手段を非使用面に有する吸収性物品本体と、この吸収性物品本体の使用面を実質的に覆う表面カバーシートとを備え、

前記吸収性物品本体が前記表面カバーシートとともに、前記表面カバーシートが外側となるようにかつズレ止め用粘着手段と対面するように長手方向に折り畳まれ、この折り畳み状態において前記表面カバーシートの前記ズレ止め用粘着手段と当接する部位が離型処

理されていることを特徴とする吸収性物品である。

【００１３】

なお、剥離紙等の配置パターンとしては、たとえば、吸収性物品が長手方向に３つ折り状態で折り畳まれ、非使用面側において中央部分を含むほぼ２／３領域に剥離紙が仮着または離型処理が施されている態様、吸収性物品が長手方向に３つ折り状態で折り畳まれ、非使用面側において中央部分のほぼ１／３領域に剥離紙が仮着または離型処理が施されているとともに、３つ折りされた吸収性物品の外側の折り畳み片が重なる表面カバーシート上に剥離紙が仮着または離型処理が施されている態様等、適宜のパターンとすることができる。

【００１４】

請求項３記載の発明は、折り畳み状態において前記表面カバーシートの両側縁相互がヒートシール接合されている請求項１または２記載の吸収性物品である。

【００１５】

請求項４記載の発明は、表面カバーシートの長手方向の一端部に粘着テープが設けられ、この粘着テープが折り畳み状態において対面する表面カバーシートに接着されている請求項１～３の何れか１項に記載の吸収性物品である。

【００１６】

請求項５記載の発明は、ショーツに貼着するためのズレ止め用粘着手段を非使用面に有する吸収性物品本体と、この吸収性物品本体の使用面を実質的に覆う表面カバーシートと、前記吸収性物品本体の非使用面側に位置し前記ズレ止め用粘着手段を覆う剥離性の裏面カバーシートとを備え、

前記表面カバーシートが、前記吸収性物品本体の使用面側の長手方向一端部に仮止めされていることを特徴とする吸収性物品である。

【００１７】

請求項６記載の発明は、前記表面カバーシートが、ホットメルト接着剤によって点で、吸収性物品本体の使用面側の長手方向一端部に、仮止めされている請求項５記載の吸収性物品である。

【００１８】

請求項７記載の発明は、前記表面カバーシートと裏面カバーシートとがそれらの長手方向の少なくとも一端において接着せしめられていない請求項５または６記載の吸収性物品である。

【００１９】

請求項８記載の発明は、裏面カバーシートと表面カバーシートとが長手方向両側縁においてヒートシール接合され、両カバーシートにより吸収性物品本体の包装がなされているとともに、その包装状態で長手方向に折り畳まれている請求項５～７の何れか１項に記載の吸収性物品である。

【００２０】

請求項９記載の発明は、前記吸収性物品本体が前記表面カバーシートおよび裏面カバーシートとともに、前記表面カバーシートが外側となるようにして長手方向に折り畳まれ、この折り畳み状態において前記裏面カバーシートと前記表面カバーシートとの両側縁がヒートシール接合されている請求項５～７の何れか１項に記載の吸収性物品である。

【００２１】

請求項１０記載の発明は、吸収性物品本体の非使用面側から長手方向端部の一辺を巡って使用面側に至る１枚のカバーシートによって、前記表面カバーシートおよび裏面カバーシートが構成されている請求項５～９の何れか１項に記載の吸収性物品である。

【００２２】

なお、本発明に係る吸収性物品は、非使用面側にズレ止め用粘着手段が形成された吸収性物品において、この吸収性物品の使用面側に、その一部が吸収性物品本体に仮止めされた状態で、この吸収性物品を実質的に覆う表面カバーシートが設けられている形態を含む。

【００２３】
【作用】
本発明においては、吸収性物品の使用面側に、その一部が吸収性物品本体に仮止めされた状態で、ほぼこの吸収性物品の使用面を実質的に覆う表面カバーシートが設けられている。
【００２４】
したがって、吸収性物品をショーツに取り付ける際に、この表面カバーシートを介して吸収性物品をショーツに押し付けることができるため、使用面に直接手を触れることなく、したがって衛生的に吸収性物品をショーツに取り付けることができる。
【００２５】
また、包装に当たっては、前記表面カバーシートを包装シートとして包装を行う。具体的には、吸収性物品を、前記表面カバーシートを外側として長手方向に折り畳み、折り畳み後に前記表面カバーシートの両側縁をヒートシール接合する。したがって、別途個装体を用意することなく、吸収性物品を個装することができる。この場合、最も単純には非使用面のズレ止め用粘着手段の全面を剥離紙で覆うのであるが、しかもその態様によっては、剥離紙の節約を図ることもできる。
【００２６】
また、本発明においては、前記表面カバーシートの他に、非使用面側の剥離紙に接着されて表面カバーシートとほぼ等大の裏面カバーシートを設ける。この場合も、前記発明の場合と同様に、吸収性物品の使用面に触ることなく、前記表面カバーシートの上から押し付けることにより、衛生的にショーツに圧着固定することができる。また、包装に当たっては、その長手方向側縁に沿ってヒートシール接合し、その後に折り畳んだり、あるいは折り畳んだ後に、裏面カバーシートと前記表面カバーシートとの両側縁をヒートシール接合することにより、簡単に包装することができる。
【００２７】
これらの場合、剥離紙を設けることなく離型性の裏面カバーシートを直接ズレ止め用粘着手段に仮着させれば、機能を失うことなく、吸収性物品の製造工程を簡略化することができるとともに、コストを低減させることもできる。
【００２８】
また、一枚のカバーシートを非使用面から使用面まで回して、このカバーシートによって裏面カバーシートおよび表面カバーシートを形成するようにすれば、表面カバーシートと裏面カバーシートとを接着する必要がなくなるため、製造工程を簡略化することができるとともに、コストを低減させることもできる。
【００２９】
【実施例】
以下、本発明を生理用ナプキンを実施例にして、具体的に説明する。
＜実施例１＞
まず、本第１発明に係る生理用ナプキンについて説明する。図１は本第１発明に係るナプキンの斜視図、図２はそのII－II線矢視図である。
ナプキン本体１は、使用面を構成する透液性のトップシート１１と、非使用面を構成する不透液性のバックシート１２と、トップシート１１とバックシート１２との間に設けられた吸収体１３とから構成され、トップシート１１とバックシート１２の四周部１４は、ヒートシール接合されている。
【００３０】
トップシート１１の表側には、ほぼ生理用ナプキン本体１を実質的に覆う表面カバーシート２が、トップシート１１の端部にホットメルト接着剤２０により点付けされて設けられている。一方、バックシート１２の裏側には、ズレ止め用粘着剤３が適宜のパターンにより塗布されており、製品状態では、このズレ止め用粘着剤３に対して剥離紙４が仮着されている。
【００３１】

このように構成されているナプキンＮ１が、表面カバーシート２を外側として長手方向に何重かに折り畳まれ包装されるが、たとえば三つ折りされて包装される場合の例を図３により簡略的に示すと、先ず図３(a) において、表面カバーシート２を下側として展開状態にあるナプキンＮ１の後端部１５を、図３(b) のように非使用面を向かい合わせて点線に沿って折り畳む。そして、後端部１５の非使用面と中央部１６の非使用面とが図３(c) のように密着した後、前端部１７をやはり非使用面側から点線に沿って折り畳む。図４(d) に示すように、前端部１７の非使用面が、後端部１５に設けられている表面カバーシートと密着したならば、粘着テープＴによって接着する。その後、図４に示されるように折り畳方向の両側部分２１、２１がヒートシールされて、ナプキンＮ１が個装された状態となる。

【００３２】

なお、上記の実施例においては、ズレ止め用粘着剤３の全面を剥離紙４によって覆っているが、この剥離紙またはこの剥離紙に代えた離型処理の配置パターンとして種々の形態が考えられる。先ず、図５に示される例は、生理用ナプキンＮ１が長手方向に３つ折り状態で折り畳まれる場合に、非使用面側において中央部分を含むほぼ２／３領域に両面離型紙２３が仮着されているパターンであり、最初に折り畳まれる後端部１５のズレ止め用粘着剤３が剥離紙２３の中央部に面接するため、後端部１５部分の剥離紙を省略することができる。また、図６および図７に示される例は、非使用面側において中央部分のほぼ１／３領域に両面離型紙２４が仮着されているとともに、表面カバーシート２の後端部１５部分に離型紙２５を設けたパターンであり、最初に折り畳まれる後端部１５のズレ止め用粘着剤３が離型紙２４の表面に面接するため、後端部１５部分の剥離紙を省略することができ、次いで折り畳まれる前端部１７のズレ止め用粘着剤３が後端部１５の表面カバーシート２部に接着された離型紙２５に面接するため、前端部１７部分の剥離紙を省略することができる。この場合、表面カバーシート２として、離型性のシートを用いれば、前記離型紙２５については省略することができる。

【００３３】

さらには、表面カバーシート２は、ホットメルト接着剤２０によって点付けされているが、適宜他の接着手段を用いてもよく、また使用面を傷めない範囲で、接着位置を適宜変更、増加することもできる。

【００３４】

＜実施例２＞

次に、本第２発明に係る生理用ナプキンの実施例について説明する。

図８に本実施例に係る生理用ナプキンの斜視図を示し、図９にそのIX－IX線断面図を示す。なお、本第１発明と同一の機能を有するものについては、同一の番号を付することとし、かつその説明を一部省略する。

【００３５】

本実施例においては、実施例１と同様に、生理用ナプキンＮ２のバックシート１２の裏面に、ズレ止め用粘着剤３が塗布され、それを完全に覆う剥離紙４が仮着されている。また、本体１の表面側には、表面カバーシート２が設けられている。そして、本実施例においては、その剥離紙４を完全に覆う裏面カバーシート５がホットメルト型固着剤６によって剥離紙４に固着されている。したがって、本実施例に係る生理用ナプキンＮ２の場合、使用者は、使用前に裏面カバーシート５を剥がすと同時に剥離紙４も剥がすことができる。

【００３６】

さらに、本実施例においては、裏面カバーシート５と表面カバーシート２とが、その長手方向両側７、７および長手方向の一方側端部８においてヒートシール接合されている。このため、これをたとえば図３に示す手順に従い長手方向に三つ折りとして折り畳み、最終的に先端部を粘着テープＴで貼着することによって、図１０に示すように個装されるので、別途個装体を容易することなくナプキンＮ２を個装することができる。

【００３７】

なお、本実施例においては、使用面を内側として折り畳むことも、非使用面を内側として折り畳むことも可能である。また、剥離紙４を設けることなく、非使用面に塗布されているズレ止め用粘着剤３に直接裏面カバーシート５を仮着することも可能である。このようにすると、剥離紙４を設ける必要がない分、製造工程を短縮でき、またコスト低減を図ることもできる。この場合、裏面カバーシート５において、少なくともズレ止め用粘着剤３と仮着される位置は、たとえば離形処理する等して、仮着できる状態としておく必要がある。

【００３８】

さらには、１枚のカバーシートを長手方向端部を巡らせて非使用面側から使用面側まで回して、裏面カバーシート５と表面カバーシート２とを兼ねることもできる。そうすれば、裏面カバーシート５と表面カバーシート２とを長手方向端部で接着する必要がなくなるため、製造工程を短縮できるとともに、コスト低減を図ることができる。

【００３９】

＜実施例３＞

続いて、本第３発明に係る生理用ナプキンの実施例について説明する。

図１１に本実施例に係る生理用ナプキンＮ３の斜視図を示し、図１２にそのXII － XII線矢視図を示す。なお、本第２実施例同様、本第１発明と同一の機能を有するものについては、同一の番号を付することとし、かつその説明を一部省略する。

【００４０】

本実施例においても、実施例１、実施例２と同様に、生理用ナプキンＮ３のバックシート１２の裏面に、ズレ止め用粘着剤３が塗布され、それを完全に覆う剥離紙４が仮着されている。また、本体１の表面側には、表面カバーシート２が設けられている。そして、本実施例においては、実施例２と同様に剥離紙４を完全に覆う裏面カバーシート５が剥離紙４に固着されている。したがって、本実施例に係る生理用ナプキンＮ３の場合、使用者は、使用前に裏面カバーシート５を剥がすと同時に剥離紙４も剥がすことができる。

【００４１】

さらに、本実施例においては、表面カバーシート２と裏面カバーシート５とが長手方向一方側端部８においてのみ、ヒートシール接合されており、これを長手方向に三つ折りし、折り畳んだ後に、図１３に示すように折り畳み方向両側７、７をヒートシール接合するとともに、先端部を粘着テープＴによって貼着することにより、別途個装体を設けることなく、ナプキン本体Ｎ３を個装することができる。この場合、シートシール接合に代えて、他の適宜の接着手段を用いることもできる。

【００４２】

なお、剥離紙４を設けることなく、非使用面に塗布されているズレ止め用粘着剤３に直接、離型性の裏面カバーシート５を仮着することも可能である。このようにすると、剥離紙４を設ける必要がない分、製造工程を短縮でき、またコスト低減を図ることもできる。この場合、裏面カバーシート５において、少なくともズレ止め用粘着剤３と仮着される位置は、たとえば離型処理するなどして、仮着できる状態としておく必要がある。

【００４３】

さらには、１枚のカバーシートを長手方向端部を巡らせて非使用面側から使用面側まで回して、裏面カバーシート５と表面カバーシート２とを兼ねることもできる。他方、上記各実施例において、ズレ止め用粘着手段として、ズレ止め用粘着剤を用いるが、たとえばズレ止め用粘着テープ等他の粘着手段を用いることができることはいうまでもない。

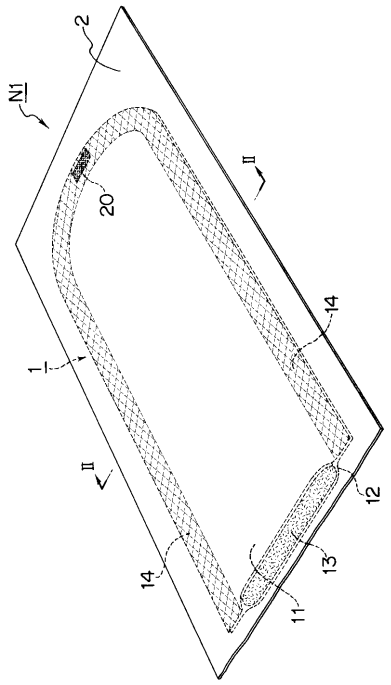
【００４４】

【発明の効果】

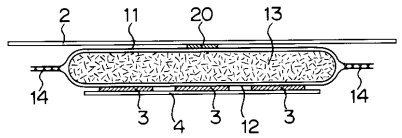
以上詳説のとおり、本発明によれば、吸収性物品の使用面に直接触らずに、吸収性物品をショーツに対し圧着固定することができ衛生的となる。また、表面カバーシートを包装シートとして利用して吸収性物品を包装するため、別途個装袋を用意する必要がないとともに、製品状態から展開させるだけで、使用可能な状態となり、取り出しからショーツに対する固定までの一連の作業を簡略できる。

【図面の簡単な説明】
【図１】本第１発明に係るナプキンの斜視図である。
【図２】図１のII－II線断面図である。
【図３】本第１発明に係るナプキンの折り畳み工程を示す工程図である。
【図４】その個装時の斜視図である。
【図５】本第１発明に係るナプキンの背面剥離紙の配設パターンの例である。
【図６】本第１発明に係るナプキンの背面剥離紙の配設パターンの他の例である。
【図７】図６のVII－VII線断面図である。
【図８】本第２発明に係るナプキンの斜視図である。
【図９】図８のIX－IX線断面図である。
【図１０】その個装時の斜視図である。
【図１１】本第３発明に係るナプキンの斜視図である。
【図１２】図１１のXII －XII 線断面図である。
【図１３】その個装時の斜視図である。
【符号の説明】
１…ナプキン本体、２…表面カバーシート、３…ズレ止め用粘着剤、４…剥離紙、２３・２４…離型紙、５…裏面カバーシート、Ｎ１・Ｎ２・Ｎ３…ナプキン、Ｔ…粘着テープ。

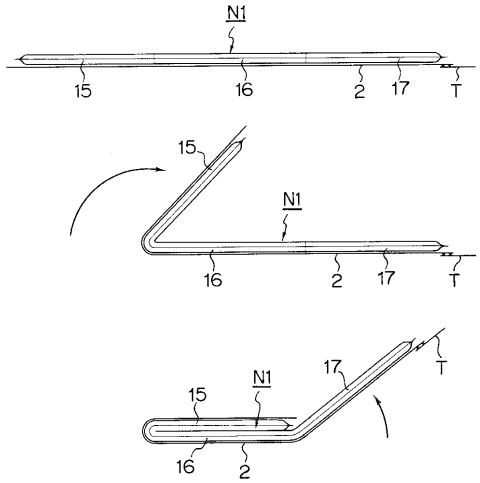
【図１】



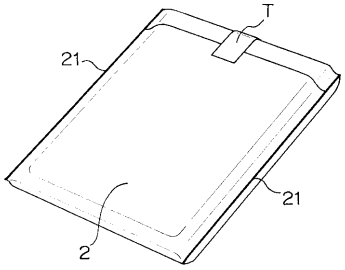
【図２】



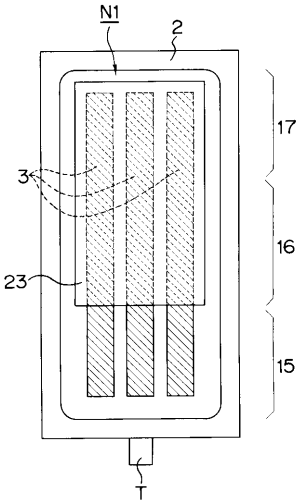
【図３】



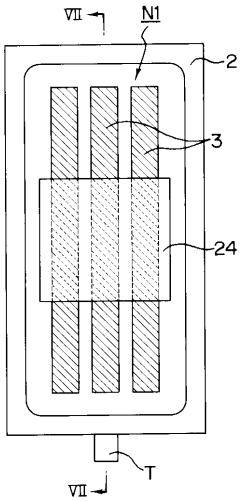
【図４】


T
21
21
2

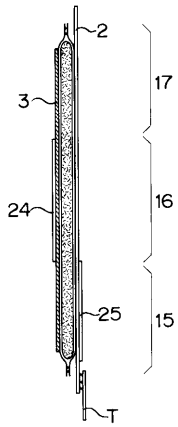
【図５】


N1
2
17
3
16
23
15
T

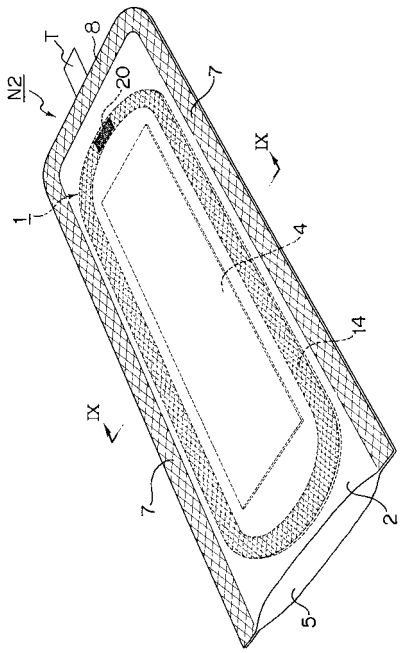
【図６】


VII
N1
2
3
24
VII
T

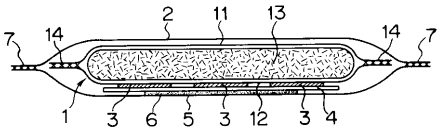
【図７】


2
17
3
16
24
25
15
T

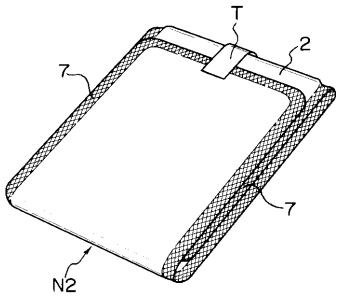
【図８】


T
8
N2
20
7
IX
1
4
14
IX
7
2
5

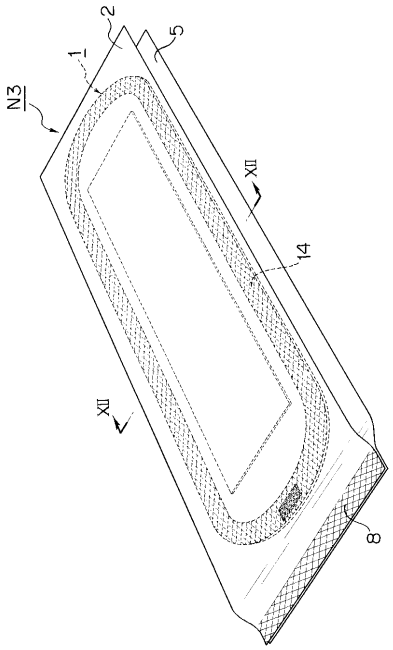
【図９】



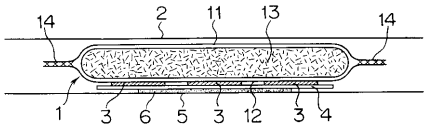
【図１０】



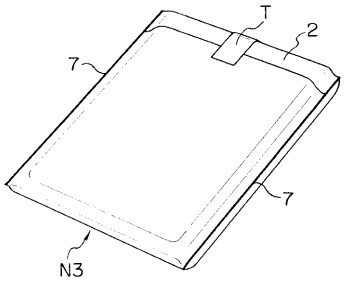
【図１１】



【図１２】



【図１３】



フロントページの続き

(58)調査した分野(Int.Cl., ＤＢ名)
A61F 13/15 - 13/84